

C/Sの各キャッシュフローの符号による経営状況のタイプ

パターン	営業CF	投資CF	財務CF	企業イメージ	企業の経営状況
1	+	-	+	攻めの経営	本業でキャッシュを稼ぎつつ、借入や株の発行も行い、キャッシュポジションを高め、成長に向けた設備投資に投下している。営業キャッシュの量が多く、投資キャッシュが大きい場合、典型的な好調&攻めの経営の会社と言えます、全体としてのキャッシュがプラスに保たれていれば戦略も十分に申し分無い。
2	+	+	-	財務体質強化	営業で稼いだキャッシュと、資産の売却で得たキャッシュで借入金を返済しています。意図的に借金返済をすることにより、金利の圧縮、自己資本比率を向上させ、財務体質の改善に取り組んでいます。営業キャッシュが+であり、返済余力があるため経営は良好ですが、不採算部門で保有している資産売却など改革中かもしれません。
3	+	+	+	キャッシュ ポジション強化	全てのキャッシュがプラスである場合、営業が好調であるのに対し、何らかの固定資産等を売却する、有価証券を売却し、さらには借入を行って現金を増やしています。何らかの大きな投資、規模拡大、キャッシュポジションの改善を狙っています。
4	+	-	-	好調な キャッシュリッチ	現金で稼ぎ出した資金を使って投資活動を行い、借入金の返済まで積極的に行っている。キャッシュポジションがかなり高い傾向にある。しかし、キャッシュが大きすぎると怠慢経営とも言え、成長が鈍化した業界の大手企業等、アクティブさに欠ける場合も。投資キャッシュが大きく成長意欲が高い場合には期待大。
5	-	-	+	スランプ	営業キャッシュがマイナスが惜しいですが、将来の投資を行っていることから投資キャッシュがマイナスです。借入も行って現状打開にチャレンジしているかもしれません。営業キャッシュがマイナスになっている理由を確認する必要があります。もし、在庫の増加等による多少のマイナスであれば、むしろ期待できる状況の場合もあります。
6	-	-	-	不調な キャッシュリッチ	本業が不調にも関わらず、借入の返済を行うだけでなく投資も行っていることから、潤沢なキャッシュをもっているのでもまだ余裕があります。上記4のように本業の経営状況が回復すれば安定企業に戻れます。
7	-	+	-	復活中	状況としては良くありません。本業が不調であり、借入の返済を行いつつ、資産の売却によってキャッシュを補填しています。内部留保（過去の利益の蓄積）が多く、自己資本比率が高いなどの場合は大丈夫ですが、営業キャッシュの改善が急務です。
8	-	+	+	経営不振	営業がかなり不調なため、運転資金の借り入れと資産売却により食いつないでいる状況で、会社の稼ぎ力が失われています。経営不調な会社に見られるパターンです。ただし、営業CFが大きなマイナスでなければ、問題ない場合もありますので、あくまで全体判断が必要です。